

【的中問題！】一部ご紹介致します！

大原：公開模擬試験－第14問

ROEが15%、配当性向が40%のときのサステナブル成長率として、最も適切なものはどれか。解答は問15へマークせよ。

- ア 6%
イ 9%
ウ 12%
エ 18%

本試験：第21問

C社の当期首の自己資本は3,000万円である。また、負債による資金調達を行っておらず、今後、外部からの資金調達を行わない予定である。当期のROEは5%、当期の配当性向は40%、株主の要求収益率は5%であり、これらは毎期一定とする。

C社の当期のサステナブル成長率と当期末の配当支払後の株主価値の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。なお、本問において、当期のROEは当期純利益を当期首の自己資本で除した値であり、配当は毎期末に支払われるものとする。

- ア サステナブル成長率：2% 株主価値：3,060万円
イ サステナブル成長率：2% 株主価値：3,090万円
ウ サステナブル成長率：3% 株主価値：3,060万円
エ サステナブル成長率：3% 株主価値：3,090万円

大原：直前対策模擬試験①－第22問

J社は、プロジェクトP及びQについて、第1年度期首時点で投資評価を行っている。以下の資料に基づき、プロジェクトPの正味現在価値及びプロジェクトQの内部利益率に近い値として、最も適切な組み合わせを下記の解答群から選べ。なお、J社の資本コストは20%である。解答は問22へマークせよ。

	第1年度期首 現金支出	第5年度期末 現金収入	内部利益率
プロジェクトP	7,000百万円	14,800百万円	約16%
プロジェクトQ	8,000百万円	19,900百万円	?

現価係数

年数	16%	18%	20%	22%
4	0.55	0.52	0.48	0.45
5	0.48	0.44	0.40	0.37
6	0.41	0.37	0.33	0.30

〔解答群〕

- ア 正味現在価値：－488百万円 内部利益率：16%
イ 正味現在価値：－488百万円 内部利益率：20%
ウ 正味現在価値：－1,080百万円 内部利益率：20%
エ 正味現在価値：－1,080百万円 内部利益率：22%
オ 正味現在価値：－1,524百万円 内部利益率：22%

本試験：第17問

B社は、800百万円の初期投資を伴う投資案の実施を検討している。この事業を実施すれば、当期以降継続的に100百万円のキャッシュフローが毎期末に発生すると予想される。

この投資案に対する内部収益率法による採否と正味現在価値法による採否の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。なお、資本コストは10%とする。

- ア 内部収益率法：採択 正味現在価値法：採択
イ 内部収益率法：採択 正味現在価値法：不採択
ウ 内部収益率法：不採択 正味現在価値法：採択
エ 内部収益率法：不採択 正味現在価値法：不採択

⑧ 財務・会計

【総評】

令和6年度の本試験は、問題数は24題（昨年23題）、設問数は25問（昨年25問）であった。5肢択一の問題が1問（昨年1問）で、残りは4肢択一の問題となっている。

出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が15問（昨年15問）、財務分野（ファイナンス）が10問（昨年10問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、昨年に引き続き、今年も会計分野の出題割合が高かった。出題論点を考慮すると、定番の論点の出題が少なく、全体的な難易度は昨年に続きやや高いレベルにあったと思われる。したがって、今年度はこの科目で60点を確保することが出来なかった受験生も多かったと思われる。

出題パターンを見ると、計算を必要とする問題は10問（昨年12問）であり、昨年に続き例年よりやや少なかった。このうち、比較的計算しやすい問題で得点を積み重ねられたかが重要となる。特に、第7問（営業キャッシュ・フローの計算）、第12問・設問1（損益分岐点売上高の計算）、第17問（投資案の評価）、第24問（通貨オプション）は正解をして欲しい問題である。

一方、計算を必要としない問題も例年並みの15問（昨年13問）であり、これらの問題については、得点しやすい問題とそうでない問題とをしっかりと区別して、得点できる問題について、いかに確実に解答できたかが重要となる。特に、第13問（資金調達）、第16問（株式分割）、第20問（リスク中立的投資家）、第23問（企業価値評価方法）は正解をして欲しい問題である。

以上